は我國初めてのもので旅行記をよむ程氣樂にはゆかないが、本書の內容が判つてゐて其後に、例へば濱田氏の「西湖より包頭まで」を讀んだならば如何に支那の地理通になれるか知れないと思はれる。また常に新聞紙に出て來る民國國內の推移を良に理解せんとするには、この書を復讀して一般の國勢を知つて置くことが必要だと考へられる。猶ほ本書には附錄として支那の都市の一篇が添へられて居る。(N)

## 雜　報

### ○故ナウマン博士の本邦關係著述目錄

エドムンド・ナウマン博士(Edmund Naumann 1854—1927)は明治八年八月十七日來朝し、同十八年歸獨せるまで、初めは東京大學の教授として地質學を講じ、次で地質調査所の地質調査長として本邦地質調査の基礎を置いた人であるが、昨年フランクフルト・アム・マインで七十四の高齡を以て物故された。左に同氏の日本に關する著述を擧げる。(文庫生)

1. Die Vulkaninsel Ooshima und ihre jüngste Eruption. *Zeitsch. Deutsch. Geol. Gesellsch. XXIX, (Heft 2), pp.* 364—391. 1877.

1b. 大島火山記(和田維四郎譯) 學藝志林(第一卷) 第一冊 一—四〇頁 明治十年

2. Japanische Kjoekkenmoeddinger. *Mitt. Deutsch. Gesellsch. Nat.-u. Voelkerk. Ostasiens, Yokohama. II, pp.* 152. 1878.

3. Ueber Erdbeben und Vulkanausbruche in Japan. *do., II (Heft* 15), *pp.* 163—216. 1873.

4. Ueber die Ebene von Yedo. Eine geographisch-geologische Studie. *Peterm. geogr. Mitt. XXV, pp.* 121—135. 1878.

5. Ueber das Vorkommen der Kreideformation auf der Insel Yezo. *Mitt. Deutsch. Gesellsch. Nat.-u. Voelkerk. Ostasiens. III (Heft* 21), *pp.* 28—33. 1880.

6. Ueber die wirthschaftlichen Verhaeltnisse Japan's und die geologische Aufnahme des Landes. *Verhandl. Gesellsch. Erdk. Berlin. VII. pp.* 33—44. 1880.

7. 內國地質調査施行之主意　勸農局地質課　明治十三年

8. 日本地形及地質概略(和田維四郎譯) 東京地學協會報告第二卷(?)明治十三年(?)頁數不

9. Die Triasformation im noerdlichen Japan. *Mitt. Deutsch. Gesellsch. Nat.-u. Voelkerk. Ostasiens. III (Heft* 25), *pp.* 205—209. 1881.

9b. Ueber das Vorkommen von Triasbildungen im noerdlichen Japan. *Jahrbuch k. k. geol. Reichsanst. Wien. XXXI, pp.* 519—528. 1881.

10. Ueber japanische Elephanten der Vorzeit. *Palaeon-*

*togr. XXIII (Heft 1), pp.* 1—39. 1881.

11. 本邦鑛山ノ槪況及改良法　地質調査所明治十五年報　第一號　五一三二頁　明治十六年(?)
12. 青森縣下尾太銅山　同上　三三一七五頁　明治十六年(?)
13. Notes on secular changes of magnetic declination in Japan. *Transact. Seismol. Soc. Japan. Tokio. V, pp.* 1—18. 1883.
14. Die kaiserlich-japanische geologische Landesanstalt nach ihren bisherigen Arbeiten. *Peterm. geogr. Mitt. XXX (Heft 1), pp.* 23—29. 1884.
15. A review, and supplement, to Messrs. Satow and, Hawes' Handbook for Travellers in Central and Northern Japan. *Tokio.* 1884. 34*p.*
16. 堺市街非水改良考按　地質調査所明治十六年報　第一號　五一二二頁　明治十七年(?)
17. 鹿兒島縣下加世田村砂止改良按　同上　二三一三三頁　明治十七年(?)
18. 本邦所產煤炭及鑛　地質調査所明治十七年報　第一號　三一二三七頁　明治十八年(?)
19. Ueber den Bau und die Entstehung der japanischen Inseln. Begleitworte zu den von der geologischen Aufnahme in Japan fuer den Internationalen Geologen-Congress in Berlin bearbeiteten topographischen und geologischen Karten. *Berlin* 1885. 91*p.*
20. Notiz ueber die Hoehe des Fujinoyama. *Mitt. Deutsch. Gesellsch. Nat.-u. Velkerk. Ostasiens. IV (Heft 32), p.* 104. 1885.
21. Geologischer Bau der japanischen Inseln. *do. IV (Heft 33), pp.* 135—159. 1885.
22. Die japanischen Inseln und ihre Bewohner. *Verhandl. Gesellsch. Erdk. Berlin. XIII, pp.* 204-211. 1886.
23. Ueber meine topographische und geologische Landesaufnahme Japan's. *Verhandl. 6ten Deutsch. Geographentages Dresden* 1886. *Berlin* 1886. 17*p.*
24. 本邦產粘板岩並刻用　地質彙報明治十九年(第二號)　一九八一二三三頁　明治十九年
25. 東北部濱絲地質圖　明治十九年
26. 四國產金地報文(原田鑛治譯)　日本鑛業會誌第一卷(第四號)　二五〇頁以下　明治十八年
26b. 四國砂金產地　地質彙報　明治二十年(第一號)二五一三八頁　明治二十年
27. The physical geography of Japan. *Proc Royal geogr. Soc. London. New Ser. IX (No. 2), pp.* 86—102. 1887.

28. Die japanische Inselwelt; geographisch-geologische Skizze. *Mitt. k. k. geogr. Gesellsch. Wien. XXX (neue Serie XX), pp.* 129—138 *u.* 201—212. 1887.

29. Die Erscheinungen des Erdmagnetismus in ihrer Abhaengigkeit von Bau der Erdrinde. *Stuttgart.* 187. 78*p.*

30. Fujisan. *Jahresbericht geogr. Gesellsch. Muenchen f.* 1887. *XII, pp.* 109—140. 1888.

31. Ueber die Geologie Japans. *Compte rendu IIIe Session* Congês géol. intern. Berlin 1885. 3e partie pp. 46—54. 1888.

32. Die Baukunst und das Bauhandwerk Japan's; ein Vortrag gehalten im Muenchner Architecten- und Ingenieur-Verein. *Deutsche Bauzeitung. Berlin, XXIII, pp.* 45—46. 1889.

33. Magnetism and earth structure. *Geol. Mag. Dec. III, Vol. VI (No.* 305), *pp.* 486—490; *pp.* 535—544 1889.

34. Terrestrial magnetism as modified by the structure of the earth's crust, and proposals concerning a magnetic survey of the globe. *Rep. 59th Meeting Brit. Assoc. Newcastle,* 1889. *p.* 565. 1890.

35. (mit M. Neumayr) Zur Geologie und Palaeontologie von Japan. *Denksch. kais. Akad. Wissensch., mathem-naturwiss. Classe, Wien, LVII, pp.* 1—42. 1890.

35b. 四國地質一斑(山上萬次郎抄譯) 地學雜誌第二集(第十八卷) 二六五—二六六頁 (第二十卷)三七四—三七六頁 明治二十三年

35c. 四國山地の地質(山上萬次郎譯) 地學雜誌 第四集(第四十卷) 一七〇—一七五頁 (第四十一卷)二二五—二二一頁 (第四十二卷)二五九—二六四頁 (第四十四卷)三五七—三六二頁 (第四十六卷)四五二—四五七頁 明治二十五年

36. Bilder aus Japan. *Westermann's Monatsheft, Braunschweig. LXVII, pp.* 484—508. 1890.

37. Neuere Arbeiten der Kaiserlichen japanischen geologischen Reichsanstalt. *Das Ausland* 1891, *pp.* 357 *u.sow. u.* 374 *u.sow.* 1891.

38. Neue Beitraege zur Geologie und Geographie Japans. *Peterm. Mitt. Ergaenzungsheft. XXIII. Nr.* 108. 45 *p.* 1893.

39. Geotektonik und Erdmagnetismus. *Verhandl. XII. Deutsch. Geographent. Jena,* 1897. *pp.* 142—166.

40. Geologische Arbeiten in Japan, in der Tuerkei und in Mexico. Vortrag gehalten beim Jahresfeste der

Senckenbergischen Naturforschenden Gesellschaft am 19. Mai 1901. *Bericht Senckenb. naturf. Gesellsch. Frankfurt a. M.* 1901 : *Abhandl.* pp. 79—99. 1901.

## ○世界石油産額

一九二五年及一九二六年の各國産出額左の如し(單位立方米)

| | 一九二五年 | 一九二六年 |
|---|---|---|
| 米國 | 一二一、四三五、一三七 | 一二三、二二五、〇〇〇 |
| メキシコ | 一八、三六六、八八五 | 一四、三一〇、〇〇〇 |
| ロシア | 八、三三九、二三二 | 九、六九九、〇〇〇 |
| ベネズエラ | 三、一三〇、二三三 | 五、九一八、九三四 |
| 波斯 | 五、五七一、〇四二 | 五、六三八、一四〇 |
| ルーマニア | 二、六四六、七一四 | 三、七〇四、五四一 |
| 東印度 | 三、四〇六、〇九八 | 三、五二九、八〇〇 |
| ペルシュー | 一、四五七、〇七六 | 一、七一四、三三八 |
| 英領印度 | 一、二七二、〇〇〇 | 一、三八七、七五二 |
| アルゼンチン | 九五二、〇六五 | 一、二四八、一二三 |
| コロンビア | 九二三、七九二 | 一、〇二四、九一四 |
| ボーラント | 九四七、六四〇 | 九二七、七六五 |
| トリニダード | 七二五、六七六 | 七九〇、三八九 |
| サラワク | 六七六、八六三 | 六三八、七〇〇 |
| 日本 | 三一八、〇〇〇 | 三〇二、一〇〇 |
| 埃及 | 一九四、九三四 | 一八四、五九九 |
| 獨逸 | 六五、三四九 | 八七、四五〇 |
| 佛國 | 七二、九八一 | 七四、〇九四 |
| カナダ | 五〇、五六二 | 五三、九〇一 |
| エクワドル | 四三、七二五 | 七、九五〇 |
| 致須國 | 七、九五〇 | 七、九五〇 |
| イタリー | 七、一五五 | 七、一五五 |
| アルゼリア | 一、九〇八 | 一、九〇八 |
| バルバドス | 一、四三一 | 一、四三一 |
| 玖馬 | | 六三六 |
| 英國 | | 三一八 |
| 其他 | 七、四七三 | 七、六三二 |

## ○ブラジル外國移民數

一九二一年度にブラジルは六〇七八四人の移民入國を見たが一九二五年には九八、一二五人、一九二六年には一二一、五六九人に增加した、今後幾十年間移民の流をうけるであらう。何となれば其面積八、五一一〇〇〇キロ米平方、人口僅に三五、八〇四、七〇四人であるが、學者の說によればこの國は十二億有餘の人を定着せしむる能力があるからである。土地の大なる外に地理的事情の變化にとみ、あらゆる農業に適するからである。珈琲、棉花牧草、甘蔗、カヽオ、煙草、穀物、材木、マテ茶、製油果實、纖維植物等が出來、地下に石油、石炭、滿俺にとみ、之等の農鑛業に從事すべき移民に對しては絕對に國民的差別をしない法律である。一九二四年迄の入國民數は左の如くである。

| 國別 | | | |
|---|---|---|---|
| 伊太利人 | 一、四四〇、六二〇 | ポルトガル人 | 一、一五八、八九〇 |
| スペイン人 | 四四六、二六四 | ドイツ人 | 一七四、八一六 |
| ロシア人 | 一〇八、五六一 | オーストリア人 | 八四、七〇九 |
| トルコ人 | 七二、〇三五 | フランス人 | 三三、一〇四 |
| イギリス人 | 三一、六〇四 | 瑞西人 | 一三、七一一 |
| 白耳義人 | 四、八三五 | 其他 | 三五八、八三七 |

これら移民の大部分はサンポウロ州、リオグランデドスー、州、ミナスゼラエス州、リオデジヤネイロ州に農業勞働者として集りサンポウロの珈琲栽培は常に數十萬の勞働者を要求する、リオ州ミナス州パラナ州之につぎ、サンパウロ州には外國移民八十四萬人に達する、一九二〇年の國勢調査によれば外國人數左の如し。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 伊太利人 | 五八、四〇五 | ポルトガル人 | 四三、五七七 |
| スペイン人 | 三九、一四二 | ドイツ人 | 五二、八七〇 |
| 墺地利人 | 二六、五四四 | フランス人 | 二、八九二 |
| 英人 | 九、六二七 | 白耳義人 | 一、九三七 |
| 其他歐洲人 | 七七、六八八 | ウルグワイ人 | 三三、六二二 |
| アルセンチン人 | 三三、二一七 | パラグワイ人 | 一七、三二九 |
| 北米人 | 三、四二九 | 支那人 | 四四五 |
| トルコ人 | 五〇、二二四 | 日本人 | 二七、九七四 |
| 其他 | 二五、〇〇〇 | | |

（市毛領事報告）

## ○英領モーリシアス島

この島は産糖國である、其年産額は布哇島の約三分一に相當し、一小島ではあるが、各種商品に對する購買力も觀過出來がたいものがある。一九二六年の貿易額は九七、八八六、三四三留比（一留比は我七十錢）内輸出四七、一五二、七一六留比、輸入五〇、七三三、六二七留比に上る、其重要輸出品はラム酒、粗製砂糖、アロー纖維、コプラ、牛皮其他の皮、椰子油で英國、印度、南阿聯邦佛國等と取引する。輸入主要品は鹽漬及乾魚、扁豆、米、小麥粉、屑鐵、金物機械鱗寸、石油の類であつて、英國は一一三四六、七九六留比を輸入するに對し我國からは僅に五三、〇七二留比に過ぎない。今より數年前本邦南米航路が同島に寄港した當時は相當の額に達したが、寄港中絶以來輸入は激減し米國之に代はるに至つた、現在ではサンジバル島より佛國船により轉送するか、ダーバンに於て中繼する外に道がない。何とかして以前の如く本邦船をこの島に寄港するやうにしたいものである。目下命令東阿航路はダーバンに十日間も碇泊してゐるのであるから、この碇泊日數を多少減縮しても モーリシアスに寄港は可能であらう。

## ○最近世界綿羊數と羊毛産額

| | |
|---|---|
| 濠洲 | 一〇三、五六三、〇〇〇頭（一九二五—六） |
| ロシヤ本部 | 六二、五七一、〇〇〇（一九二四） |
| 支那 | 四五、〇〇〇、〇〇〇（一九二一） |
| 北米合衆國 | 四一、九〇九、〇〇〇（一九二六） |
| アルセンチン | 三六、二〇九、〇〇〇（一九二二） |

| | | |
|---|---|---|
| 南阿聯邦 | 三二、〇〇三、〇〇〇 | （一九二五） |
| 英國 | 二七、五九〇、〇〇〇 | （一九二六） |
| 新西蘭 | 二四、七四八、〇〇〇 | （一九二五） |
| 英領印度 | 二二、八八二、〇〇〇 | （一九二五） |
| 西班牙 | 二〇、〇六七、〇〇〇 | （一九二四） |
| アジアロシア | 一九、一〇六、〇〇〇 | （一九二五） |
| ウルグアイ | 一四、四四三、〇〇〇 | （一九二五） |

羊毛產出國產額

| | 封度 | |
|---|---|---|
| 濠洲 | 七六八、〇〇〇、〇〇〇 | （一九二五—二六） |
| アルゼンチン | 三一四、八四〇、〇〇〇 | （一九二六） |
| 北米合衆國 | 三一一、五〇〇、〇〇〇 | （一九二六） |
| 新西蘭 | 二〇七、八〇一、〇〇〇 | （一九二六） |
| ロシア全部 | 一九五、〇〇〇、〇〇〇 | （一九二六） |
| 南阿聯邦 | 一九〇、〇〇〇、〇〇〇 | （一九二六） |
| ウルグアイ | 一二五、〇〇〇、〇〇〇 | （一九二六） |
| 英國 | 一一三、六八五、〇〇〇 | （一九二六） |
| スペイン | 一〇五、七九二、〇〇〇 | （一九二六） |

最近世界の羊毛年產額は大體三十億封度見當なるが濠洲第一にして年額の二五乃至三〇%を出す。

## ○ランカシヤに於ける人絹業の勃興

英國に於て人絹工業最近の發展は著しく一九二五年以後新勃興の氣運に向つてきた新設會社の七ツの中四ツ迄ランカシヤに集中されてある、これは交通の便にして販賣の中心マンチエスターを控へ、製織仕上、染色業等の消費地としてはランカシヤの各綿業地及マツクルスフイールド、リーグ等の絹業地に近く、レスター、ノツチンガム等のレース製造地も亦遠からず、而も紡績機械製造業の中心にありて、職工吸收の容易なること等の條件による。昨年中ランカシヤの人絹消費額は八百五十萬乃至九百萬封度、一週十七八萬封度內外であるが、絹綿交織物の流行のため、本年八月には消費の莫大になつて人絹不足を告ぐるに至つた。蓋し人絹應用により綿布の用途は急速に擴大せられつゝある。これは綿布に少しばかりの人絹を混ずることによつて驚くべく美觀をますからである

現代歐洲婦人服裝の著しい傾向は益々薄着となつてゆくので、衣服も重い厚地の物よりも、輕き薄地物が歡迎せられ、絹綿交織はこの條件に適し而も安價で體裁がよい、婦人用としてリンガーリー用等の下着地、ドレス等の上衣地、外套其他の裏地其他イヴニング、ダンス服、スポーツ服、ハンカチーフ、スカーフ等のファンシイ品用等あらゆる方面に及ぶ。且之等婦人服は概して流行の變遷甚しく、昨日の流行は最早今日の舊式であるから、高價にして耐久性ある天然絹織物よりも洗濯に耐えざるも、安價にして外觀美なる絹綿交織物が歡迎をうけることゝなつて、絹綿交織は其價格と外觀とによつて、從來天然絹を買ひ得なかつた階級は勿論從來綿布に甘んじた階級を牽引すること非常に大となつてゐる。蓋し絹綿交織物の價は之を綿布の高級品と比較して其差決して大なら

ずといふ强味がある、日本も今明年中に千萬封度乃至千五百萬封度の人絹を出すやうになつた英國の進歩に後くれてはならぬと思ふ。

**○スマトラ麻とマニラ麻**　最近スマトラを始め瓜哇ボルネオ地方に品質優良なるマニラ麻敵對品が產出せられ已にマニラ麻の最好顧客たる紐育市場に現れ頗る好評を博したるためさなきだに近年著しく聲價を失墜して居るマニラ麻は大弱りである。本年一月以降の各主要仕向地別マニラ麻輸出數量を見るに、英國及其他歐洲諸國行數量は前年の數量に比して三萬二千餘俵の增進となり、又日本への輸出も一萬二千餘俵の增加を示めしてはゐるが、米國向は十一萬二百餘俵の著減であるこれは主としてスマトラ麻或は其他纖維品に壓倒されることの證であるとて比島政府當局に於ては大に其生出品の改良につとめてゐるといふ。

**○アンデス横斷鐵道の電化**　智利側リオブランコ驛から亞國側ラスクエヴアス間の電化に着手したのは二年半以前のことであつたが、一九二七年十月二十九日完成した。從來この間は多數のトンネルで煤烟のため旅客が苦んだのであるから、今回の擧は旅客に非常な氣受けである。今の電力はロスアンデス驛から五十キロのプンカル驛海拔二千二百四十米より供給し高壓電力四萬四千ボルトの交流を三千ボルトの直流に變電して使用するといふ。

**○地球學團長崎支部近況**　昨年末より長崎市及附近の地理に篤學なる者十數名が瓊浦中學森氏を中心に長崎地理學會を組織して會員の研究發表、質疑討議、實地踏査見學等を行ひ研究をつゞけてゐる、研究發表の際は何れもその要項をプリントして會員に頒つのが特色で、これには多大の勞を惜しまず研究に眞劍味を添へてゐる。この會を基礎として今回地球學團長崎支部を設置することになつたので其近況を報告する。

第一回　學會　（昭和二年十二月十一日）（瓊浦中學校地理準備室に於て）

本會創立までの經過　高見善太郎

岡山附近の自然地理　森　壽美衞

平井氏製作模型により秋吉臺、屋島、諏訪湖盆、奈良盆地等研究

第二回　旅行　（十二月十八日）

長崎市より北東に浦上川を上り長與に至る。

長崎本線鐵橋附近の本支流々路。九月の水害狀況、畔無石切場の安山岩及長與村洗切の第三紀層貝化石、冷泉湧出地等研究。

第三回　學會　（昭和三年一月十五日）

箱根雜觀　一瀨　眞八

長崎附近產岩石鑛物　三宅　三郎

第四回　學會　（一月二十九日）

諏訪盆地々形概觀　山本　一男

北米東部の地形と人文　柔田　熊藏

第五回　學會（二月十九日）（西坂小學校に於て）

圓錐圖法實習指導　森　壽美衞

地震計の原理　高見善太郎（園員森報）

## ○愛知地理學會創立

昭和三年二月四日、名古屋市を中心として愛知縣中等學校に地理科を教授せる人々相會して愛知地理學會を創立した、其中心としては、本學園員耕崎正男氏、岡田鎭太氏、富田司馬氏、夏目易治氏、村山清吉氏等が幹事世話方で、二高女の伊藤君以下二十六名の熱心な會員を網羅してゐる。その第一例會は左の如くで盛會であつた。

昭和三年二月十八日、東田小學校に於て

一、題目　地名の研究　刈谷中學　稻垣健太郎氏

北海道樺太旅行談　第一師範　高橋　寅藏氏

（園員耕崎報）

## 質疑應答

【問】蒙古の羊毛の種類について　岡山　浦上生

【答】我國人も近頃蒙古の牧羊事業の研究を始めて、蒙古羊に改良を加へ、自國の羊毛會社をして蒙古羊毛に適應せしむるやうに氣をつけてきだした。しかし英米の方が早く支那の羊毛に着眼し、アメリカンヴーレン商會の如きは極東に毛織物會社の工場を移轉せんとしてゐる位である。蒙古では、羊は彼等唯一の生活資源で、肉と脂肪と乳とは其主食料であり其毛皮と毛とは天幕又は衣料であり、其糞は沙漠地唯一の燃料である。蒙古の羊毛は東蒙古のものは鐵道で奉天と錦州に集り、北蒙の產は滿洲、哈爾賓、海拉爾に集まり、察哈爾のものは張家口に西套河套地方のものは包頭歸化城に集中されて取引される。

滿蒙を通じて羊數は二千萬頭といふが實數は不明である、大略千五百萬頭以上には上るらしい遼西義縣地方が最も棉羊が盛で、其毛質は最良であるが、其他は劣等である、品質の惡い上に死毛が多いといふ一大欠點がある。さて棉羊毛の區別は左の通りである。

棉羊　春毛　春期に剔毛されるもので品質良好で英米人が買取つてゆく。

秋毛　秋期の剔毛で、毛は强靱なるも粗硬で短い欠點がある。支那人が消費する。

抓毛　棉羊の毛皮を鞣す時、其毛並を揃ゆるため抓子に生ずるもの、品質は良好高價であるといはれる

小羊毛　羊絨　山羊の冬期に生ずる棉毛で之を春期に剔さたるもの、品質優良高價なるもの多し。

山羊毛、前者を抓き取つた後に殘るもので粗毛である、悉く支那人が消費する。

岡山の浦上君から質問された套毛といふのは、どうも不明